

「有言実行」の志を貫き 政策実現に取り組んだ6期24年の確かな実績

※川越けいじが取り組み実現に導いた政策の一部の紹介です。

議員定数の5人削減を実現

川越けいじは平成30年2月、議員定数を50人から45人に減らす条例改正案を自ら起草し提案しました。

これは、10年以上に渡って懸案となっていた「議員定数問題」に終止符を打つべきとの考えから、覚悟を持って取り組んだもので、提案理由は将来の人口減少やそれに伴う財政への影響を見据えてのものでした。

同年の第1回定例会において、議案提出者の川越けいじと削減案に反対する議員との質疑が交わされ、採決の結果、条例改正案は可決され前回の市議選から定数が50人から45人へ削減されました。

川越けいじは、今後も時代を捉え、効率的な議会運営に努めてまいります。



質疑に答弁する川越けいじ(平成30年3月9日)

市立の全ての小・中・高にクーラー設置

川越けいじは、平成22年9月の代表質疑において、鹿児島市立の小学校・中学校・高等学校の普通教室へクーラー設置を求める立場で質し、森市長から設置する方針の答弁を引き出し設置が開始。平成26年度までに全ての学校で設置が完了しました。

これにより猛暑の夏場における教育環境は大幅に改善され、現在も適宜更新がなされております。

今後も、子どもたちの教育環境向上に尽力し、教育現場の更なる改善に努めてまいります。

猛暑・降灰対策で鹿児島市内の小学校に設置された「クーラー」



夜間急病センターの移転・拡充に尽力

川越けいじは、当選間もない平成13年第4回定例会で、当時、加治屋町の鹿児島市医師会に併設され、開設から20年以上が経過していた夜間急病センターの問題を取り上げ質問。翌平成14年には夜間急病センター建設調査事業費が計上されたことを受け診察室の不足や待合室が狭隘であること、また、レントゲン装置すらないことなどを長女の受診の経験をもとに質問。鹿児島市当局は、当時改築や拡充を行った富山市や新潟市など5市の調査を早急に行うことや、運営形態についても他都市の調査を実施するなかで建設計画を策定することを答弁。その後、建設計画は進み、平成18年4月に施設が拡充されたうえで現在の鴨池に移転オープンとなりました。

今後におきましても、市民の皆さまの安心・安全な生活を守るため、更に尽力してまいります。



子どもの夜間の急病にも対応

議会改革WGを設置し更なる議会改革を実現

川越けいじは、多面的な議会改革に取り組むため、議長就任直後から議長の諮問機関として、広報・ICT推進・議会運営の3つのWG(ワーキンググループ)を設置。それぞれのWGにおいて協議を行った結果、広報では「市議会だより紙面の見直し」「市公式SNSを活用した情報発信」ICT推進では「タブレット端末およびアプリケーションの導入」「タブレット端末の活用による効率化及びペーパーレス化の推進」議会運営では「市当局側への反問権の付与」「委員会記録のwebでの公開」「代表質疑の1問1答方式の本格導入」「委員会審査でのタブレット端末活用」など、多くの議会改革を行い、「開かれた議会」ならびに「効率的で深い議論」ができる環境を実現しました。

今後も更なる議会改革に尽力してまいります。タブレット端末の活用を開始



甲突川河畔の花見のルール策定を実現

毎年春になると、甲突川河畔では美しく咲き誇る桜を楽しむ市民で賑わいますが、当時はルールがなかったため、折角の花見も深夜までの喧騒や大量の放置ゴミなどが問題となっておりました。

川越けいじは、当選間もない平成13年第2回定例会でこの問題を取り上げ、抜本的解決策を図る観点からルール策定を求めた結果、翌年の14年春から、前日までの場所取り禁止や午後10時までの終了時刻設定、またゴミの原則持ち帰りなどのルールが定められました。更に、



春先、多くの花見客で賑わう甲突川左岸

客引き行為等の禁止に関する条例の制定に尽力

川越けいじは、天文館連絡協議会やWe love天文館協議会を始めとする天文館地区の5つの団体の皆さまから令和5年6月15日に要望書の提出を受け、天文館地区における客引き禁止条例制定に動き始めました。平成17年第3回定例会から、県条例や罰則のない理念条例である「安心安全まちづくり条例」では取り締まることのできない客引き行為に関する個別条例が必要であると再三訴えていたことや、国体を目前に控えた時期でもあったことから、スピード感を持って取り組む必要があると考え、各機関との調整や調査を行うとともに、協議を開始。市当局側が条例制定する場合2年半の時間を要するとしていたものを、鹿児島市議会初の議員提案による政策条例という形で、8月28日の本会議で議決。2カ月余りという、非常に短期間のうちに条例制定にこぎ着けました。この条例では、命令に違反した際の氏名の公表や、最大5万円の過料なども定められており、今年3月には実際に氏名の公表および過料の処分が下されており実効性のある条例となっております。

川越けいじは、安心・安全な鹿児島市づくりを目指し、これからも更に尽力してまいります。



条例内容を大型ビジョンで告知

進む中心市街地の再開発と活性化

川越けいじは、中央地区で生まれ育った議員として、中心市街地活性化にも努めており、近年まちが大きく変わってきております。

加治屋町の旧市立病院駐車場跡地には令和2年4月に「国際交流センター」が完成し、同年10月には旧市立病院跡地に「加治屋まちの杜公園」が整備されました。また、時を同じくして、中央町19番街区・20番街区の再開発により「Li-Ka19・20」が竣工。その後、令和4年4月には、千日町1・4番街区の再開発により「センターラス天文館」が開業。4・5階部分には、鹿児島市が「天文館図書館」を設置し、開館1カ月で20万人、1年余りで100万人を超す人々が訪れる人気スポットとなりました。

今後も、加治屋町1番街区の再開発を始め、いづろ地区などでも再開発が検討されており、中心市街地の更なる活性化が期待されております。



完成式典に参列した森博幸市長(当時)と川越けいじ



かわごえ 川越けいじ(52歳)

- 昭和46年12月 鹿児島市生まれ
- 敬愛幼稚園・山下小学校・甲東中学校を卒業
- 平成2年3月 鹿児島玉龍高校 卒業
- 平成6年3月 青山学院大学 経営学部 卒業
- 4月 西日本銀行(現 西日本シティ銀行) 入行
- 平成10年12月 政治を志して西日本銀行 退職
- 平成12年4月 鹿児島市議会議員に28歳(最年少)で初当選
- 現在まで 6期連続当選
- 議会運営委員会 委員長/総務消防委員会 委員長
- 環境文教委員会 委員長/都市整備対策特別委員会 委員長
- 市立病院のあり方及びJ跡地の活用策等に関する調査特別委員会委員長
- 定額給付金及び子育て応援特別手当に係る予算審査特別委員会委員長などを歴任
- 令和2年5月 第92代 鹿児島市議会議長 就任
- 令和4年5月 第93代 鹿児島市議会議長 就任
- 現在 鹿児島市議会議長

「こども医療費助成制度」の堅持と更なる拡充

川越けいじは、4子の父親として子育てに携わるなかで、子育て家庭における経済的負担軽減の重要性を常に感じてきました。特に医療費は時期を想定できない出費であり、「助成制度を堅持しなくてはならない」という立場から、鹿児島県からの補助が打ち切られそうになった際は、「鹿児島市に対し県からの補助を廃止したいという打診があった」との情報をいち早く入手し、平成19年第3回定例会の個人質疑でその事実を明らかにし、県の対応を批判したうえで制度堅持を求め、乳幼児医療費助成制度(現在の「こども医療費助成制度」)が堅持されました。

その後も子育て支援施策の拡充を求め続け、鹿児島市においては平成28年4月から医療費助成の対象を中学校修了まで拡大しております。

また、現在は償還払い(立て替え払い)となっておりますが、現物給付方式(窓口負担無し)を実現するよう、引き続き尽力してまいります。

改正時期	医科	歯科
昭和48年7月	0歳児のみ	
昭和48年10月	6歳未満児まで	↓
昭和57年7月	↓	4歳未満児まで
昭和59年7月	6歳未満児まで	
平成19年4月	小学校就学前まで	
平成25年8月	小学校修了前まで	
平成28年4月	中学校修了前まで	

市民の生命を守るドクターカーとドクターヘリ

川越けいじは、市議会議員立候補前から、天文館で街頭演説や署名活動を行うなかで、ドクターカー導入を訴えてまいりました。

平成12年4月の議員当選後からは、個人質疑を始め、あらゆる機会を捉えその必要性を説き続け、その結果、平成26年10月ついに鹿児島市立病院にドクターカーが導入されました。現在は平日8:30~22:00、土日祝8:30~17:15まで運用が行われております。引き続き、24時間365日の運用となるよう更に努力を続けてまいります。

また、ドクターカーとドクターヘリとの連携による救命救急体制の確立も訴えてまいりましたが、平成23年12月にはドクターヘリの運用も開始され、鹿児島市立病院の救命救急センターがその運用主体を担っております。

今後におきましても、更なる安心・安全な鹿児島市づくりに努めてまいります。



救命効果が高い「ドクターカー」 機中에서도治療する「ドクターヘリ」

「若き薩摩の群像」史実に即した形に見直し

川越けいじは、平成19年第3回定例会において、「薩摩藩英国留学生19人のうち、土佐藩を脱藩して薩摩藩士となった高見弥一と、長崎出身で薩摩藩の通訳者であった堀孝之の2人が、若き薩摩の群像に含まれていないことは鹿児島市の排他的な狭量さを象徴したものとなる」として2人の追加建立を求めました。これに対し市当局は、「完成した芸術作品である」という理由から追加建立に着手しておりませんが、令和2年に予算が計上され「若き薩摩の群像」が史実に即した形となって追加建立が実現しました。

左から川越桂路市議会議長・島津家第32代当主島津修久氏・森博幸市長(当時) ▶ 像製作者中村晋也氏・高見弥一の曾孫高見長臣氏・堀孝之の玄孫富原カンナ氏

